

ママとパパのための「子どもの予防注射特別休暇」を導入

November 18, 2015

ママとパパのための「子どもの予防注射特別休暇」を導入

- ・ 小学校就学前の子どもを持つ社員が対象
- ・ 子どもが予防注射を受ける際に年間2日（半日単位も可）の特別休暇を付与
- ・ 女性だけではなく男性社員の積極的な育児参加を促進

アッヴィ合同会社（本社：東京都港区、社長：ジェームス・フェリシアノ）は、11月17日の「世界早産児デー」に合わせて、小学校就学前の子どもを持つ社員を対象に「子どもの予防注射特別休暇」を導入します。本休暇制度では、女性だけではなく男性社員への子育て支援を目的に、子どもが予防注射を受ける際に年間2日（半日単位も可）の特別休暇が認められます。

当社は、ほぼ100%の子どもが2歳までに感染するといわれている¹「RSウイルス」や、「RSウイルス」により重症化する危険性の高い「早産児」について啓発活動を実施してまいりました。その活動を通じて、適切なタイミングで必要な回数の予防注射を子どもに受けさせることは、子育て中の女性にとって大きな負担であることが分かりました。小学校就業までは約30の予防注射を受けることが推奨されており、早産児のように感染症にかかりやすい子どもの場合、その数はさらに増えることが予想されます。

NICUママネット のびっこ代表 佐々木 綾子氏は、以下のように述べています。「現在、新生児の20人に1人が早産で生まれており、その割合は年々増加しています。早産児の場合、推奨される予防注射等の数が増えるばかりではなく、注射のタイミングの調整等、母親の負担がさらに大きくなります。特に母親が働いている場合、父親の積極的な育児参加が大きなサポートとなります。今後、早産児を含めた、全ての子どもの健康を守る上で、予防注射が受けやすい環境が作られることは非常に重要だと考えます」

日本の男性の育児取得率は増加傾向にあるものの2.3%で、女性の86.6%（「平成26年度雇用均等基本調査（速報版）」：厚生労働省）に比べて大きな差があります。また6歳未満の子どものいる世帯において育児に費やす時間は男性が39分、女性は3時間22分（「平成23年社会生活基本調査」：総務省）で、政府が押し進める女性の社会進出が促進される一方、男性の育児負担は進んでいない状況が見受けられます。

当社では、「子どもの予防注射特別休暇」が社員の柔軟な働き方をサポートし、女性だけではなく、男性の積極的な育児参加を促し、適切な予防注射を受けることにより、子どもたちの健康が守られていくことを期待しています。

ママとパパのための「子どもの予防注射特別休暇」について

- ・ 休暇日数
1年間に2日まで（半日単位の取得可能）
- ・ 対象者
小学校入学前の子を養育する正社員、契約社員（男性・女性問わず）
- ・ 対象となる事象
あらゆる種類の予防注射

RSウイルス感染症について

RSウイルス感染症（respiratory syncytial virus infection）は、RSウイルスの感染による呼吸器の感染症です。生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもがRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされています。¹ 症状としては、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。しかしながら、初めて感染発症した場合は重くなりやすいといわれており、乳期、特に乳児期早期（生後数週間～数カ月間）にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。そのため、特に乳児期早期（生後数週間～数カ月間）のお子さんがいらっしゃる場合には、感染を避けるための注意が必要です。²

NICUママネット のびっこについて

NICUママネット のびっこは、新生児集中治療室（Neonatal Intensive Care Unit：NICU）を体験し、小さく生まれた子どもを持つご家族のための当事者団体です。活動は山口県内が中心で、ご家族同士の交流の機会を作ることはもちろん、情報収集・情報発信にも力を入れています。ブログ「NICUママの部屋（URL：http://blog.canpan.info/nobikko_nicu/）では山口県内のNICUサークルの活動の様子や、小さく生まれた子どもとの毎日や心情をつづっています。

アッヴィについて

アッヴィは、アボットラボラトリーズからの分社を経て2013年に設立された、研究開発型のグローバルなバイオ医薬品企業です。専門知識や献身的な社員・イノベーション実現に向けた独自の手法を通じて、世界で最も複雑かつ深刻な疾患領域における先進的な治療薬を開発・提供することをミッションに掲げています。アッヴィは、100%子会社のファーマサイクリクス社を含めて世界で28,000人以上を雇用し、170カ国以上で医薬品を販売しています。当社の概要や人材・製品群・コミットメントに関する詳細はwww.abbvie.com をご覧ください。よろしければTwitterアカウント@Abbvieもフォローください。また、人材情報はFacebookやLinkedInページをご参照ください。

日本においては、アッヴィ合同会社の約900人の社員が、医療用医薬品の研究・開発や販売に従事しています。自己免疫疾患・新生児・肝疾患・ニューロサイエンスの各領域を中心に、患者さんの生活に大きく貢献できることを願っています。詳しくは、www.abbvie.co.jp をご覧ください。

1. 国立感染症研究所 ホームページ：IDWR2013年第36号 <注目すべき感染症> RSウイルス感染症（閲覧日：2015年11月16日）
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/rs-virus-m/rs-virus-idwrc/3972-idwrc-1336-01.html>
2. 厚生労働省 ホームページ RSウイルスQ&A （閲覧日：2015年11月XX日） http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html